

浪江町を復興していくためには、町民の生活再建・健康管理、インフラの復旧、将来に向けたまちづくり、賠償問題、絆の維持など多くの課題があります。

その中で、町がどのような取組をしているのかをお知らせします。

みんなで ともに 乗り越えよう

福島イノベーション・コースト構想の 実証事業が行われています

■小高郵便局～浪江郵便局間で「ドローン輸送」

11月7日、日本郵便株式会社は、小高郵便局（南相馬市）～浪江郵便局（浪江町）間（約9キロメートル）において、小型無人航空機（ドローン）による目視外飛行輸送を開始しました。

今回の輸送は、国土交通省のガイドラインに基づく補助者による目視確認を行わないドローン飛行として、国内初の取組となります。将来的には、ドローンを活用して各家庭まで荷物を配送することを目指しています。この事業は、平成31年3月末まで実施される予定です。



【飛行概要】 飛行予定日：毎月第2・第3週火～木曜日
飛行時間帯・回数：9時～16時の間に1日最大2往復

■自動運転自動車の「公道走行実証試験」

12月3日、株式会社社会津ラボと福島トヨペット株式会社は、JR浪江駅～浪江町役場間（約1キロメートル）を自動運転自動車で走行する「公道走行実証試験」を開始しました。公道における実証試験は、福島県内では初めてのことで、平成31年1月末までこの実証試験が続く予定です。

今後は、自動運転タクシーやバスなどの実用化につながることを期待されています。



町は、これらの民間事業者の取組を支援しています。

問 企画財政課企画調整係 TEL 0240(34)0240

町の農林水産業 再生に向けて

問 農林水産課農政係 0240(34)0245
 問 農林水産課農林水産係 0240(34)0246

営農再開ビジョン 報告会

10月30日、川添地区において、営農再開に向けたビジョン報告会が行われました。報告会には地元農地所有者



の方31人が集まり、2回の座談会を経て話し合われた課題、方向性、必要な対策を確認しました。

今後は、「取り戻そう 自然豊かな郷土を 継いでいこう 次世代へ」をスローガンに、ほ場整備の計画や法人化、人・農地プランの作成等に取り組むこととなります。

ストックの出荷と トルコギキョウの 定植が始まりました

苅宿地区の「鈴の木ファーム」では、9月に定植したストックの初出荷が始まりました。

ストックの花言葉は「愛情の絆」。色取り取りのストックは、スリーブで包装された状態で、東京の大田市場といわき市の市場にそれぞれ出荷されています。

また、北幾世橋地区の「花農家あい」では、トルコギキョウの初定植が始まりました。福島県原子力被災12市町村農業者支援事業を活用して整備したパイプハウスの中で、トルコギキョウ（花言葉「希望」）の苗が次々と植えられています。



農業委員会だより *第16回*

農地パトロールを実施しました

11月から12月にかけて震災後初めてとなる農地パトロール（農地の利用状況調査）を実施しました。

調査は、農業委員および農地利用最適化推進委員が、避難指示が解除された地域を地図と照らし合わせながら、復興組合により保全管理されている農地、営農を再開している農地および管理されずに荒れている農地の実態を確認しました。今後、荒れている農地の増加を防ぎ、農地の利用集積を進めるために調査結果を生かしていきます。

農地を荒らしておく、病害虫の発生や有害鳥獣のすみかとなるなど、近隣へ悪影響を及ぼすおそれがあります。帰還されている方や営農再開している農家の方のためにも、所有している農地は適正に管理するようお願いいたします。



2月の申請締切日は1日(金)です。

問 農業委員会事務局（農林水産課内）
 TEL 0240(23)5706



鈴の木ファーム



花農家あい